

# 笛吹川と石和温泉

- 笛吹川について
- 明治40年の大水害
- 小松導平(こまつどうへい)
- 石和温泉

# 笛吹川について



笛吹川の上流

- ・山梨市北部の甲武信ヶ岳(こぶしがたけ)・国師ヶ岳(こくしがたけ)・奥千丈岳(おくせんじょうたけ)から流れてくる。
- ・広瀬ダムがある。
- ・釜無川(かまなしがわ)と合流して富士川になる。



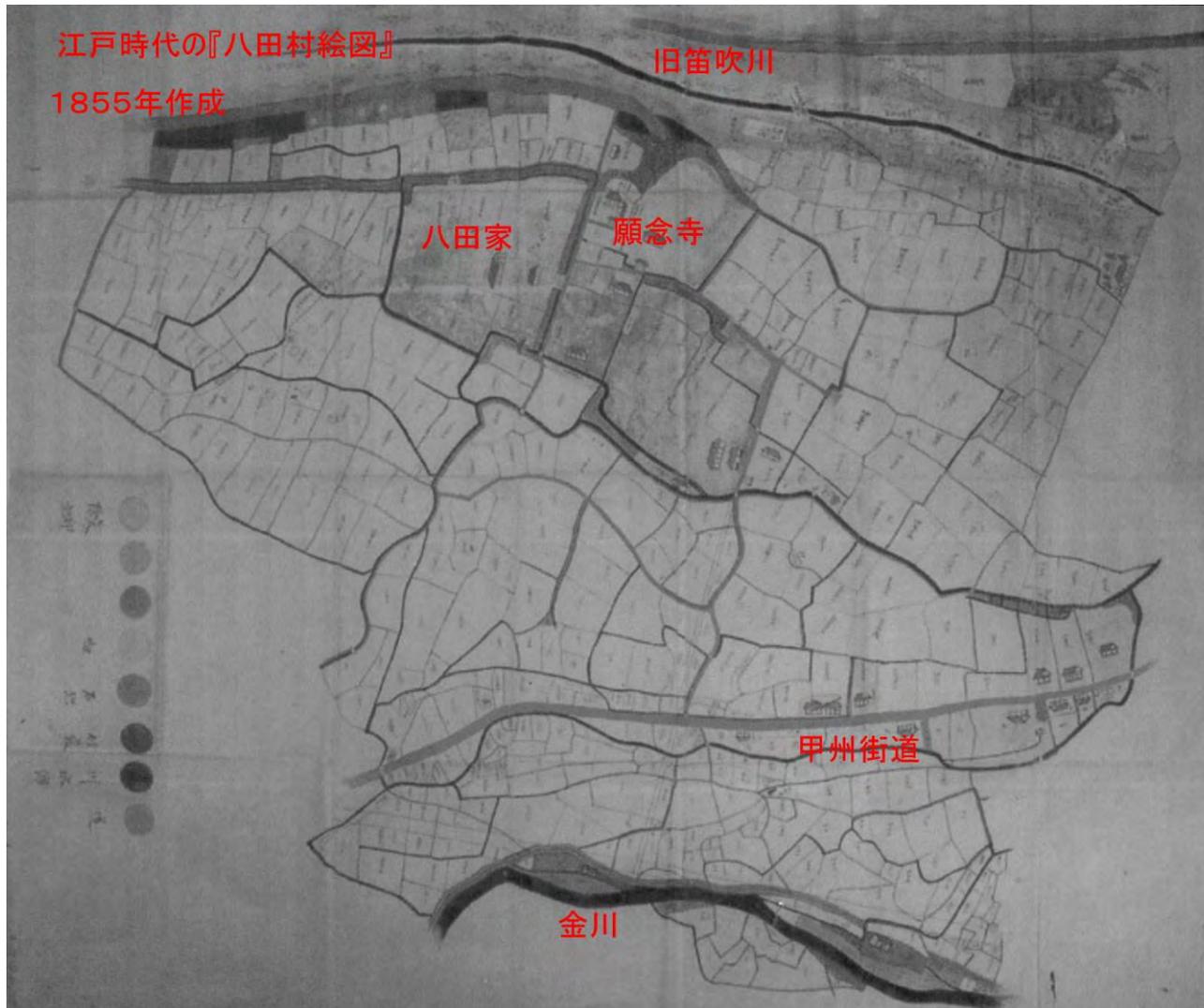
笛吹権三郎の墓

笛吹川の名前の由来は、水害で流された母親を笛を吹きながら探したという「笛吹権三郎」という民話に語られています。

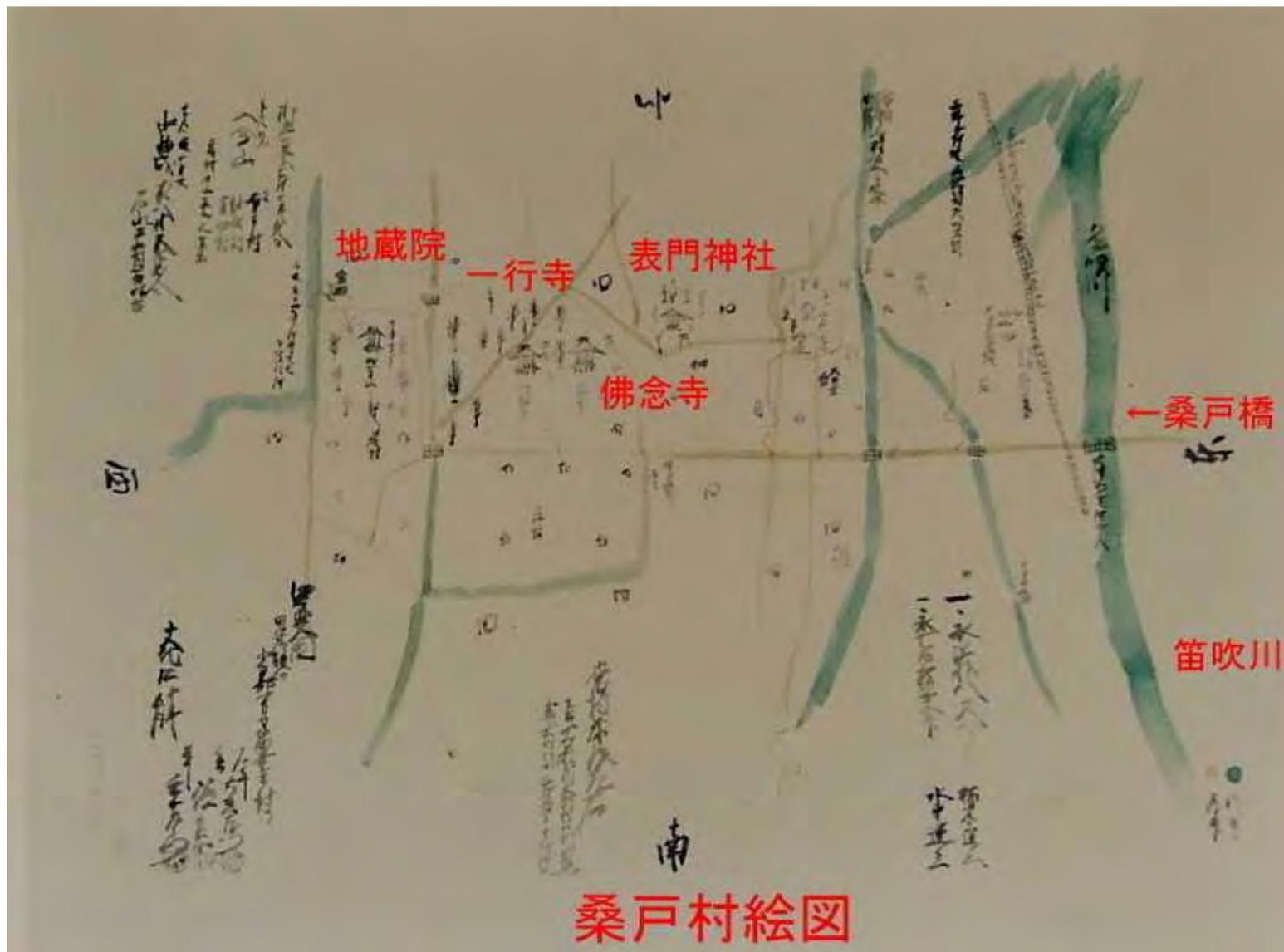
春日居町小松の長慶寺(ちょうけいじ)には笛吹権三郎のお墓があります。



江戸時代の絵図をみると、笛吹川が今の近津用水(ちかつようすい)の場所を流れていたことがわかります。



広い範囲を見てみよう。



春日居町にあった桑戸村の地図にも笛吹川と堤防が描かれています。

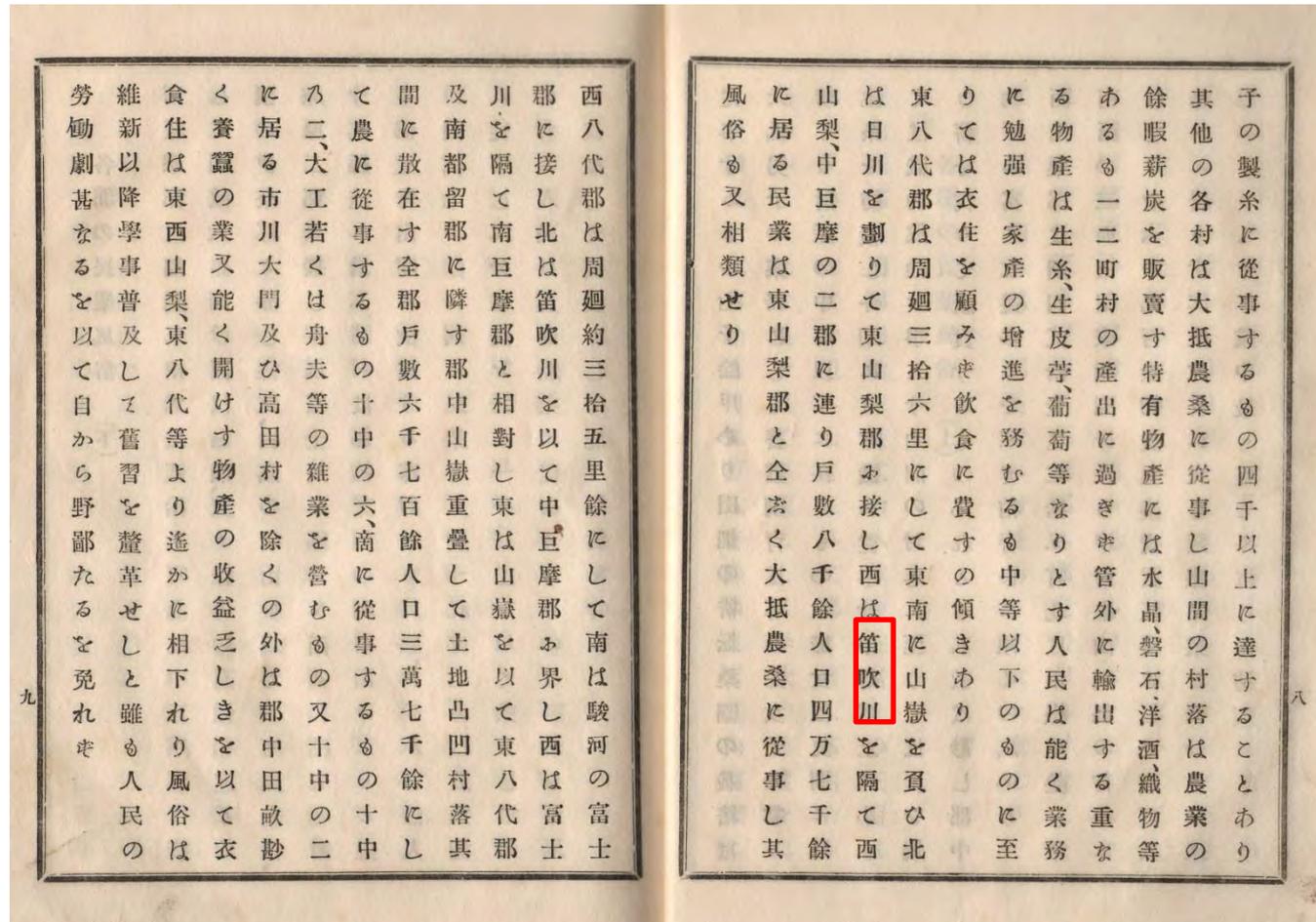


昭和10年の桑戸橋

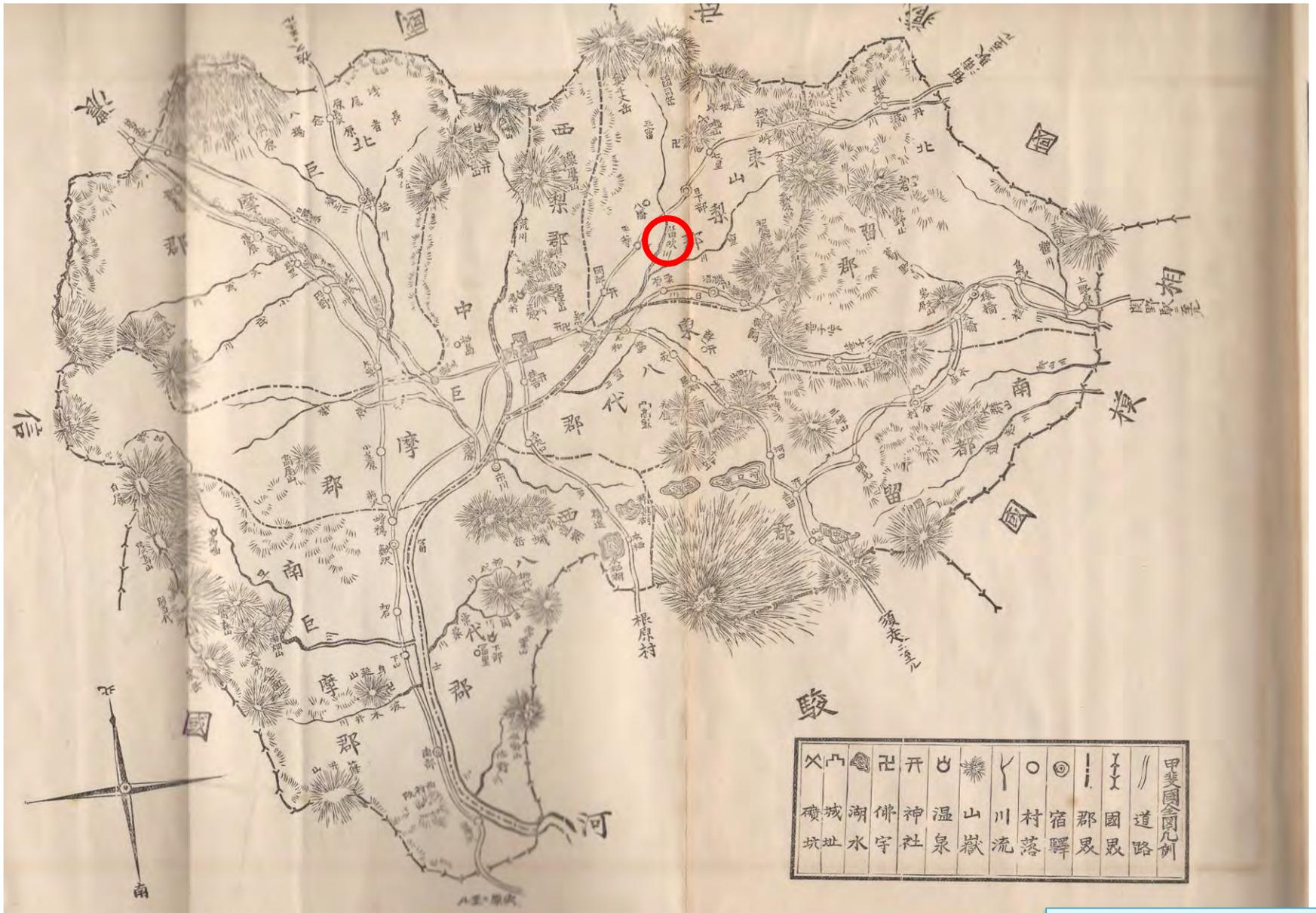
平成の桑戸橋



# 古い教科書で見る笛吹川



明治時代の教科書



明治時代の教科書



# 古い写真で見る笛吹川



甲運橋を渡る幸さんの行列(明治44年)



鵜飼橋開通式(大正10年)



昭和40年ごろの笛吹川

# 明治40年の大水害以前の water 記録

- 石和の中心は笛吹川と鶺鴒(うかい)川の中洲(なかす)
- 一宮町方面からは金川も合流しています
- 何回も大水害をおこり、何度も流れを変えています
- 江戸時代以降・・・正保2年(1645)から慶応2年(1866)までに27回、明治になって9回も水害がありました。
- 宝永元年(1704)、享保13年(1728)、寛保2年(1742)、延享4年(1747)、宝暦2年(1752)、宝暦7年(1757)、寛政3年(1791)、文化13年(1816)、文政6年(1818)、文政11年(1828)、安政6年(1859)、慶応3年(1866)が大水害。特に寛保2年、延享4年、文政11年、明治29年、明治31年に大きな被害がありました。

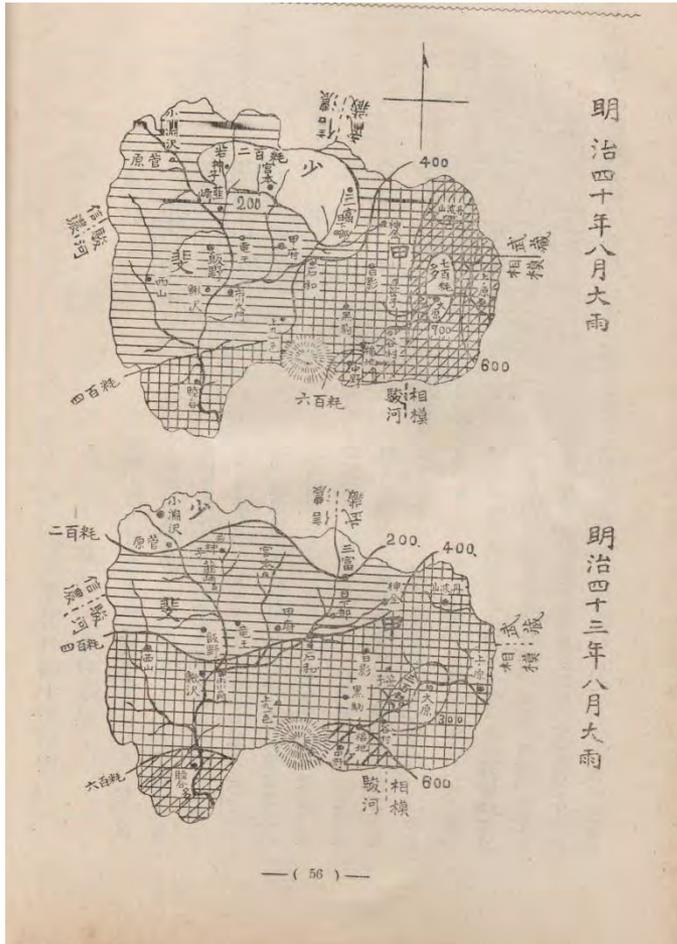
# 明治40年大水害前の旧笛吹川

- 笛吹川の舟運・・・江戸時代には荷物を運ぶ船が笛吹川をさかのぼってきた。
- 石和周辺にも船着き場があった。  
石和・川田・国府・山崎・東高橋（甲府市）

# 明治40年の大水害

- 2度の大雨がふりました。
- 1回目:8月15日・・・笛吹川が増水し、甲運橋下流及び井戸・油川が被害
- 2回目:8月22日～25日・・・降雨量480ミリに達する記録的大豪雨。まず川中島の堤防決壊、次に鶉飼川、更に近津堤(ちかつつみ)が決壊し、笛吹・重川・日川の3河川が1本の濁流となり、川中島を土石流が呑み込み、総戸数120戸の大半が流失しました。市部から下流の村々全域が水に沈みました。鶉飼橋、甲運橋の相次ぐ流失により石和は完全に陸の孤島になりました。
- 川中島地区を除くと生命の犠牲者は少なく、下流域は浸水と砂礫による被害がほとんどでした。

# 明治40年の大水害





増水した笛吹川



流された甲運橋  
笛吹川の先には市部の家が見えます



甲運橋が直るまでロープを使い、川を渡っていました

## 明治40年の大水害2

- 小石和の赤ん坊を背負った若いお嫁さんが姑さんと一緒に屋根に乗ったまま乙黒まで流されたが奇跡的に助かりました。
- もとの笛吹川の左岸に生えていた柿の木に登った96名の人々が助かったという川中島の「お助けの柿の木」(川中島のお助けの木は榎)。
- 23日から27日までの4日間は孤立状態で食べ物が届きませんでした。
- 「米キタ」「アスヤル」「船クル ヒルコス」・・・26日に救援の米が救護所になっていた甲運亭(甲府市)に届いたのを障子に書いて知らせました。



市部の人たちに米が来たことを知らせる障子紙



道が川になった市部通り



市部通りでは泥を取り除く作業をしました

# 石-1 市部通り



現在の市部通り



富士見地区の被害①



富士見地区の被害②



富士見地区の被害③



おさんごじの枯れ杉

石和町河内



石-14

お助けの木跡地(天満宮跡)

石和では木につかり、多くの人が助かりました



水害で流れついた六地藏

願念寺



石和大水害碑

石和町八田

## 笛吹川の流れを変える！

- 笛吹川と鶺飼川が水害後砂礫に埋もれたため河川改修をする必要がありました。
- 笛吹川の流路変更・・・もとの笛吹川の河床が上がり、鶺飼川が低くなったため、笛吹川を鶺飼川の位置に変えました。
- 河川変更により旧鶺飼川沿いの耕地を国有地にしました。
- 土地を無くした人のなかには、北海道へ開拓者として集団移住した人もいます。現在の豊浦町、倶知安町、京極町、喜茂別町に移住。



大水害後の工事に集まった人たち(明治41年撮影)



# 小松導平(こまつどうへい)



小松導平は1878年に一宮で生まれました。弟の早川徳次は地下鉄の父と呼ばれています。1907年8月に大水害が起こり、1917年導平35才の時に笛吹川が今の流れに変わりました。

泥におおわれた旧笛吹川の開拓に導兵は乗り出し、1925年に開拓する権利を手に入れます。翌年から開拓をはじめ、荒れた土地に畑を造ります。その後、温泉が湧き出し旧笛吹川の土地は温泉街になりました。

# 笛吹川廃河川敷開拓

- 笛吹川流路変更後に生じた旧笛吹川廃河川敷を開拓します。
- 廃河川敷・・・旧近津堤付近から白井河原（甲府市）まで延長12km、120ha
- 大正5年4月・・・旧笛吹川河川敷が廃河川敷となります。同時に7月までに土地の権利者に廃河川敷有償無償払下ると宣伝します。
- 権利者824名が確定するも大正9年になっても全体まで進みませんでした。

# 小松導平の開拓

- 大正15年8月・・・小松導平、権利買収し、廃河川敷開拓に乗り出します。
- 廃河川敷の開拓地・・・甲州街道沿いを文化村と名づけ東文化と西文化に分けて始めます。
- 東文化村・・・上流から平等川合流地点まで24戸の入植者により開拓
- 西文化村・・・合流点下流小松導平が開拓



開拓前の旧笛吹川(国道140号線より見る松本地区方面)



開拓前の旧笛吹川(松本地区)



区画ごとに畑を造っていきました



畑ではスイカなどを作りました





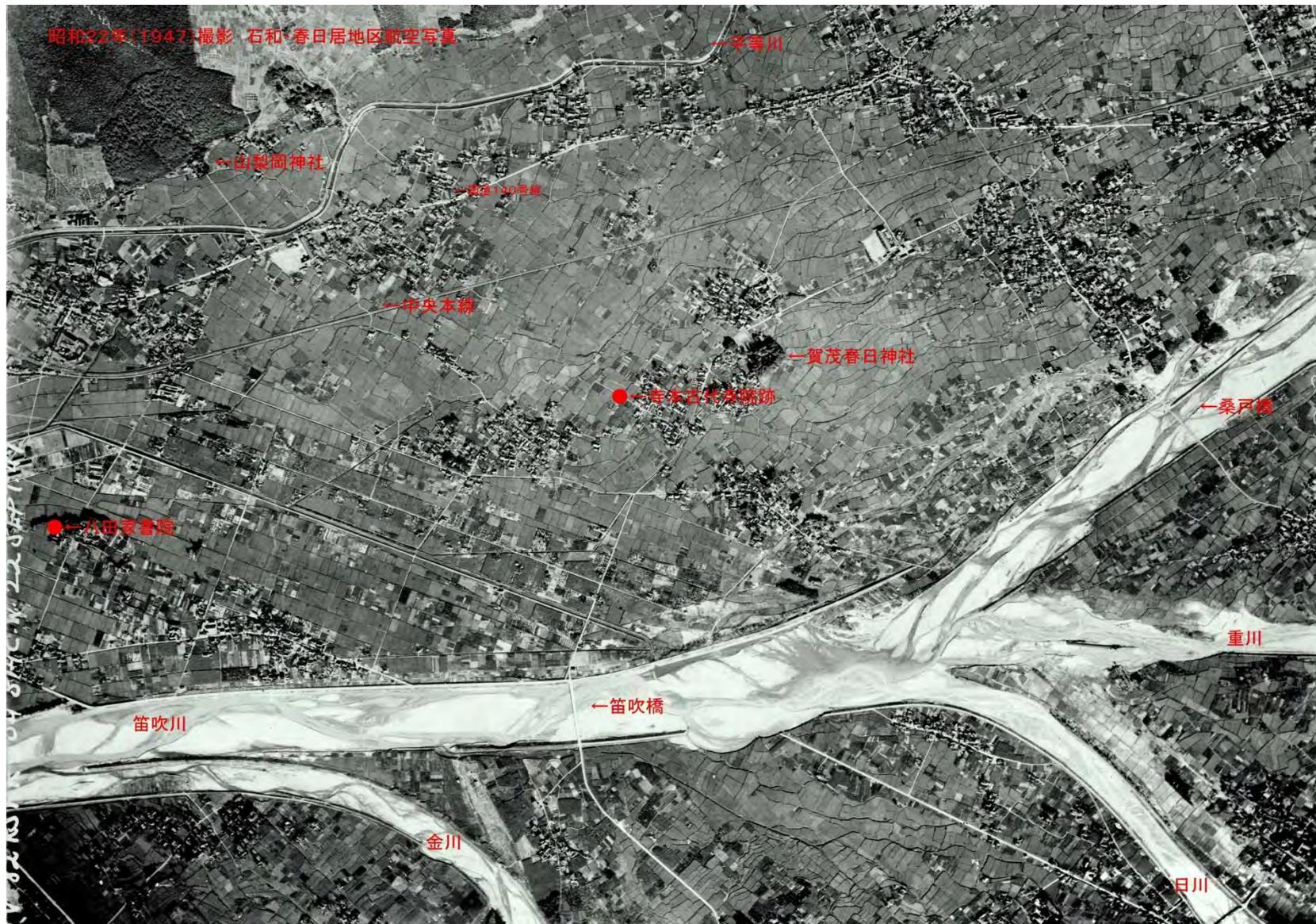
スイカの出荷風景



荒れた河原を開拓し畑を造った小松導兵さんの記念碑

# 笛吹川旧河道(青点線内)





# 石和温泉



1961年に温泉を掘り、49℃の温泉が湧き出し周辺の川や田畑の流れ出しました。



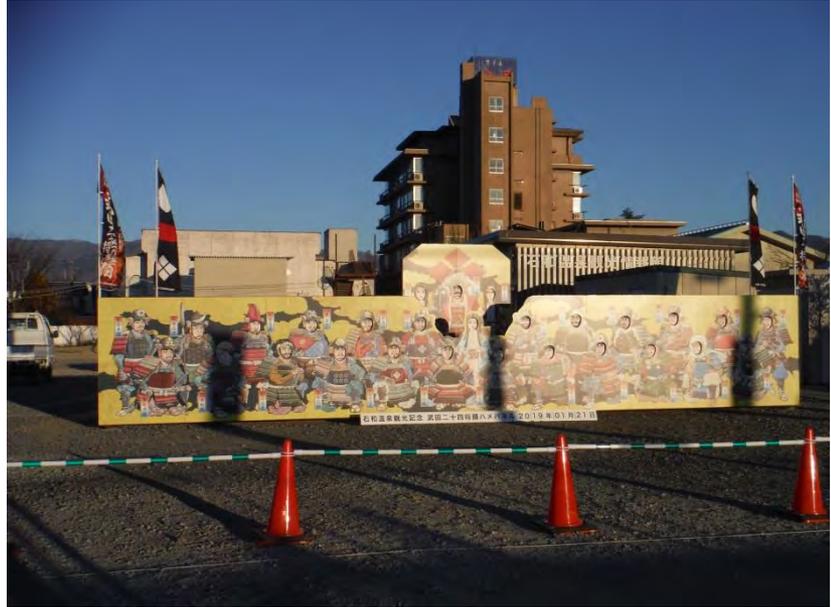


石和温泉駅から笛吹川までの近津用水(旧笛吹川)を中心に東西約1キ。にわたり石和温泉街が広がっています。



# 今の石和温泉







旧笛吹川河道: 青点線内

甲斐奈神社

種無葡萄発祥の地

笛吹川旧河道

石和高熱温泉発祥地碑

近津堤跡

近津用水

石和高熱温泉発祥地

平等川

お助けの木跡

願念寺六地藏

石和大水害碑

八田御朱印屋敷跡

旧笛吹川河道: 青点線内

笛吹川旧河道

近津堤跡

